

牛久：学校周辺に見る自然

第69号 中根小

2012年2月18日発行

＜ 冬の校庭観察 ～3. その他の植物 ＞

1/26、中根小4年生の校庭観察。今回はコケなどその他の植物も含め、冬のような様子を見ましょう。



葉を落とし、枯れてしまったかのように見えるサクラ。木の姿、枝分かれのようすなどが、分かりやすい季節でもある。

サクラなどのように、冬に葉を落として、まるで枯れてしまったかのように見える樹木を「落葉樹（らくようじゅ）」といいます。葉は、低温や乾燥に弱く、また、冬には自分の栄養もほとんどつくりことができなくなります。それで葉を落として、休眠状態に入ります。春に芽吹き、葉の活動に適した暖かい季節にだけ葉を広げるので、大きくうすい葉をもつものが多いようです。



冬でも緑の葉をつけ、花も咲かせるサザンカ。花粉はハナアブなどの昆虫やメジロなどの鳥に運んでもらっているようです。

その一方で、真冬でも緑の葉をつけている樹木もあり、「常緑樹（じょうりょくじゅ）」と呼ばれています。これらの樹木にとっても、冬は寒さや乾燥のため葉がダメージを受けやすい季節なので、葉を厚くしていたり、水分が蒸発しにくい作りをもっていたりします。緑葉をつけていても耐えられる、関東より西の暖かい地域に多く見られます。中には、サザンカなどのように、この時期に花を咲かせるものもあります。



お日様の光がそそぎ、少し暖かくなると、冬でも花を咲かせる雑草もあります。植え込みの中で、オオイヌノフグリやノボロギクが咲いていました。果実をつけているものも多く、少しでもチャンスがあれば仲間を増やそうとしているようにみえました。ただし、こうして飛ばされた種子が、すぐに芽を出すには厳しい季節です。きっと暖かくなるまで、種子のまま眠っているのでしょう。

植え込みの中で、冷たい北風をさけ、花を咲かせ果実もつけているノボロギク（キク科）。



木の幹にはりつくようにして登っている茎を見つけた。秋のまっ赤な紅葉が美しいツタ（ナツツタ）でした。つる植物の一種ですが、アサガオやツルレイシなどのように、巻きつきながら登っているではありません。どうしているのかとよく見てみると、何やら吸盤きゅうばんのようなもので、幹にはりついてます。吸盤ではりつき、茎を支えながら上へ上へと登り、光をたくさん受けとめようとしているのですね。

つる植物の仲間、ナツツタ。アサガオのように巻きつくのではなく、「吸盤きゅうばん（きゅうばん：左）」と「気根きこん（きこん）」ではりつきながら、登っていく。ただし、この吸盤は葉が変化してできたものなので、ふつうの葉と同様、冬には枯れてしまいます。でも大丈夫。今度は少し下の方から、「気根きこん（きこん）」とよばれる根をはって、幹にしがみつくのです。こうして高い木の上の方にまで登り、葉を広げることができるようになるのですね。



木の幹の上で、葉をぴったりと茎にはりつかせ乾燥にたえるヒナノハイゴケ（左）。

霧吹きで湿らせると、葉を広げ、見違えるようにいきいきとした（右）。

幹にはりつくツタを見ていたら、近くの別の木でも、緑の葉をつけて幹にはりつき、じっとこらえているものがありました。ヒナノハイゴケというコケ植物でした。上の2枚は同じ部分を写しましたが、左は乾燥している状態で、葉が茎にはりつくようにして乾燥にたえています。右は霧吹きで湿らせた



状態ですが、葉を開きいきいきとしていますね。コケたちはこうして、少しでもよい環境になると、それに合わせて活動し、少しずつだけれど成長していくことができるのです。左のように、仲間を増やす「孢子ほうし（ほうし）」をつめこんだ袋をつけているのもいました。コケの葉は、顕微鏡で見るととても美しいですよ。【理科支援員 宮内】

孢子ほうしのつまった袋をつけ、仲間を増やそうとするヒナノハイゴケ。